

日本フィル&サントリーホール

# とっておき アフタヌーン

2022~23  
シーズン

Vol.20

2022.9.27(火)

JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA  
&  
SUNTORY HALL  
MATINEE CONCERT SERIES ON WEEKDAYS  
“Totteeki Afternoon” Vol. 20

人、音楽、自然——日本フィルのテーマです。  
JAPAN  
PHILHARMONIC  
ORCHESTRA  
創立指揮者 渡邊 暁雄

SUNTORY HALL

日本フィル&サントリーホール  
となつておき アフタヌーン Vol. 20

JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA  
&  
SUNTORY HALL  
MATINEE CONCERT SERIES ON WEEKDAYS  
“Totteeki Afternoon” Vol. 20

2022年9月27日(火) 14:00開演  
サントリーホール 大ホール

Tuesday, September 27, 2022 at 14:00  
Suntory Hall, Main Hall

指揮: 太田 弦  
Gen Ohta, Conductor

ピアノ: 仲道郁代  
Ikuyo Nakamichi, Piano

ナビゲーター: 高橋克典  
Katsunori Takahashi, Navigator

日本フィルハーモニー交響楽団  
Japan Philharmonic Orchestra

コンサートマスター: 木野雅之 [日本フィル・ソロ・コンサートマスター]  
Masayuki Kino, JPO Solo Concertmaster

[主催]  
日本フィルハーモニー交響楽団 / サントリーホール

[協力]  
ANAインターコンチネンタルホテル東京  
ヤマハミュージックジャパン

モーツァルト: ピアノ協奏曲第20番 ニ短調 K. 466  
Wolfgang Amadeus Mozart: Piano Concerto No. 20 in D Minor, K. 466

I. Allegro  
II. Romance  
III. Allegro assai

ピアノ: 仲道郁代  
Ikuyo Nakamichi, Piano  
使用楽器: ヤマハコンサートグランドピアノCFX

— 休憩 —  
intermission

ベートーヴェン: 交響曲第5番 ハ短調 作品67「運命」  
Ludwig van Beethoven: Symphony No. 5 in C Minor, Op. 67

I. Allegro con brio  
II. Andante con moto  
III. Allegro  
IV. Allegro

◆マスクを着用されていない方のご入場はお断りしております。ご鑑賞中も含め、館内では常時マスクをご着用ください。◆館内でのお客様同士の会話、演奏に対するブラボーなどの掛け声はお控えください。◆こまめな手洗い、手指消毒、「咳エチケット」の励行をお願いいたします。◆出演者へ花束、プレゼントなどを直接お渡しすることや、楽屋入り待ち、出待ちなどはお断りしております。◆時差退場へのご協力をお願いいたします。



©ai ueda

指揮: 太田 弦  
Gen Ohta, Conductor

1994年北海道札幌市に生まれる。幼少の頃より、チェロ、ピアノを学ぶ。東京藝術大学音楽学部指揮科を首席で卒業。学内にて安宅賞、同声会賞、若杉弘メモリアル基金賞を受賞。同大学院音楽研究科指揮専攻修士課程を卒業。2015年、第17回東京国際音楽コンクール〈指揮〉で2位ならびに聴衆賞を受賞。指揮を尾高忠明、高関健に師事。これまでに読売日本交響楽団、札幌交響楽団などを指揮。19年4月から22年3月まで大阪交響楽団正指揮者を務める。23年4月から仙台フィルハーモニー管弦楽団指揮者に就任。21年2月、オクタヴィア・レコードより交響曲 第8(9)番 ハ長調 D944「ザ・グレイト」(新日本フィル公演ライブ収録)をリリース。



ナビゲーター: 高橋 克典  
Katsunori Takahashi, Navigator

神奈川県横浜市生まれ。1993年『抱きしめたい』で歌手デビュー。その後、俳優として「サラリーマン金太郎」などのヒット作を得る。最近では2020年大河ドラマ「麒麟がくる」、22年「正直不動産」に出演。22年秋にはNHK連続テレビ小説「舞いあがれ!」に主人公の父親役として出演。両親は共に音楽家で、小学生の頃はピアノとトランペットに親しみ、現在も、ロック、ジャズ、クラシックと音楽全般に関心をもっている。出演映画として22年5月『20歳のソウル』、22年8月『バイオレンスアクション』公開。



©Taku Miyamoto

ピアノ: 仲道 郁代  
Ikuyo Nakamichi, Piano

第51回日本音楽コンクール第1位、ジュネーヴ国際音楽コンクール最高位、エリザベート王妃国際音楽コンクール入賞。ピッツバーグ響、バイエルン放送響、フィルハーモニア管、ドイツ・カンマーフィルなど、海外オーケストラと共演多数。CDはレコード・アカデミー賞受賞CDを含む『仲道郁代 ベートーヴェン集成〜ピアノ・ソナタ&協奏曲全集』『ドビュッシーの見たもの』ほか。著書に『ピアニストはおもしろい』(春秋社)など。ベートーヴェン没後200年と自身の演奏活動40周年が重なる2027年に向けて「仲道郁代 The Road to 2027 リサイタル・シリーズ」を展開中。音楽がヒラク未来代表理事、地域創造理事、桐朋学園大学教授、大阪音楽大学特任教授。令和3年度文化庁長官表彰、ならびに文化庁芸術祭「大賞」を受賞。

<https://www.ikuyo-nakamichi.com>



©堀田カヲ

日本フィルハーモニー交響楽団  
Japan Philharmonic Orchestra

1956年6月に故渡邊暁雄を中心に創立。「オーケストラ・コンサート」「リージョナル・アクティビティ」「エデュケーション・プログラム」という三つの柱で活動を行っている。首席指揮者ピエタリ・インキネン、首席客演指揮者カーチン・ウォン(2023年9月より首席指揮者)、桂冠指揮者兼芸術顧問アレクサンドル・ラザレフ、桂冠名誉指揮者小林研一郎、フレンド・オブ・JPO(芸術顧問) 広上淳一という充実した指揮者陣を中心に演奏会を行い、「音楽を通して文化を発信」している。東日本大震災の被災地に音楽を届ける「被災地に音楽を」を11年4月より開始、21年1月には300回を超えている。その活動が高い評価を受け、第16回後藤新平賞を受賞。「人に寄り添う」「温かさ」の土壌を大切にしながら、あらゆる人々へ、世代へ、地域へ、音楽の持つ様々な力を社会に活かしていくことを目指している。毎週水曜日22時54分〜23時、BS朝日「Welcomeクラシック」出演中。

公式ホームページ [japanphil.or.jp](http://japanphil.or.jp) 公式Twitter @Japanphi

モーツァルト:ピアノ協奏曲第20番 二短調 K. 466

オーストリアのザルツブルクに生を受けたヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756~91)は、5歳で作曲を始め、11歳でオペラ『パステイアンとパステイエヌ』を作曲し、35年10か月という短い生涯に、600曲以上の作品を残した。それらは器楽・声楽のほとんど全ての分野にわたり、いずれものびやかで美しい旋律をもち、意味深な半音階的進行や多様な転調、大胆な不協和音の使用など、唯一無二の個性に満ちている。

ピアノ協奏曲は、モーツァルトが力を入れて作曲した分野の一つで、全部で30曲近い作品が残されている。特に20番台に入ってから音楽は、当時のウィーンにおける聴衆の理解のレベルをはるかに超えた高みへと到達し、結果的に彼の人気を落とし、赤貧の中で世を去る原因となった。1785年2月に初演された第20番は、二短調というモーツァルト初の短調の協奏曲で、暗くきらめく哀愁に包まれている。一方、直後の3月に初演された第21番はハ長調という晴朗な響きをもち、明るく弾むような楽想であることから、この2つの協奏曲は、個性は違うが同じ血が流れている“二卵性双生児”に例えられる。

第1楽章:アレグロ 低音域でうごめく暗く悲劇的な導入からは、作曲者の内面の不安や悩みが感じられるようで、聴く人に張りつめた空気を伝える。

第2楽章:ロマンス まずピアノで、次にオーケストラで歌われるこのうえなく安らかな旋律と、目まぐるしい中間部の強烈なコントラストが印象に残る。

第3楽章:アレグロ・アッサイ 激しい上昇音階による導入のインパクトは、次に来るベートーヴェンの時代さえ予感させる。モーツァルトの新たな作風を印象づけた記念碑的な作品と言えるであろう。

ベートーヴェン:交響曲第5番 ハ短調 作品67「運命」

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770~1827)が、この「運命」と次の第6番「田園」を作曲したのは1807年から翌年にかけてであるが、そこから数年さかのぼった1802年、彼は進行する難聴に苦しみ、一時は死を覚悟し、弟たちに宛てて「ハイリゲンシュタットの遺書」と呼ばれる手紙までしたためていた。作曲家として致命的な耳の病のために、彼がどれほど苦しんだかは想像に難くない。ベートーヴェンは、「田園」に表れているような、柔らかくナイーブな感性の持ち主であった。一方、「運命」や「第九」で表現されるような、男性的な強い意志や不屈の精神もまた、ベートーヴェンの魂を形作っていた。この2つの人間性が、労苦の多い創作活動を支えたのである。

「運命」というタイトルはベートーヴェン自身によって付けられたものではない。最初の4つの音符のことを、ベートーヴェンが「運命はこのように扉をたたく」と語った逸話に基づくと考えられるが、このエピソードは日本以外では馴染みが薄いようだ。この曲が以後の芸術家に与えた影響は計り知れないほど大きく、永遠の輝きをもつ交響曲の傑作として、多くの人々に愛され続けている。

第1楽章:アレグロ・コン・ブリオ 「ダダダダーン」という有名な4つの音符で始まる緊張感あふれる音楽。いっさいの無駄がなく凝縮された、音楽の真髄ともいえる楽章である。

第2楽章:アンダンテ・コン・モート 激しい第1楽章と対照的に、美しく瞑想的な世界が描かれ、ひとときの安らぎの空間を生み出している。

第3楽章:アレグロ 不安げに始まり、荒々しく盛り上がる音楽は、人間の持っている弱さや惑いを表しているようである。曲は切れ目なく次の楽章へと続く。

第4楽章:アレグロ 輝かしく雄大な曲想はオーケストラによる誇らかな勝利の歌のようである。堂々とした建築物を仰ぎ見るときの畏怖に似た、偉大なものに触れているときの感動が聴衆を包み込み、曲は壮麗な響きで幕を下ろす。

◆ 有料オンライン配信のお知らせ ◆

本日のコンサートのライブ配信映像を、リピート配信でご覧いただけます。  
お好きな時間と場所で何度でもお楽しみください。

視聴券 ¥2,200

視聴期間 2022年9月28日(水)14:00~10月4日(火)23:00



デジタルサントリーホール  
配信公演ページ「WATCH」  
ボタンより、視聴券購入  
画面にお進みいただけます。

※デジタルサントリーホール(サントリーホール・メンバーズ・クラブWEB/チケットぴあ)、イープラスでの取り扱い

SNSキャンペーン

Twitterで感想を投稿された方の中から、抽選で出演者サイン入りパンフレットをプレゼント  
詳しくは、とおきアフタヌーン @totteokiaftern 公式Twitterをチェック!



◆ 次回のお知らせ ◆

日本フィル&サントリーホール  
とおきアフタヌーン  
2022~23シーズン

Vol.21  
14:00  
開演

2023. 21 水 指揮:広上淳一 サクソフォン:上野耕平  
ナビゲーター:高橋克典

曲目 ハチャトゥリヤン:パレエ組曲『ガイヌ』より ピゼー:組曲『アルルの女』第2番 ほか

S ¥5,500 A ¥4,400 B ¥3,300

日本フィル各種会員、サントリーホール・メンバーズ・クラブ  
先行発売:10月12日(水)10時~18日(火)  
一般発売:10月19日(水)

詳しくはHPをご覧ください▶







人、音楽、自然——日本フィルのテーマです。



JAPAN  
PHILHARMONIC  
ORCHESTRA

創立指揮者 渡邊 暁雄



SUNTORY HALL